

JVTA®

日本映像翻訳アカデミー株式会社
Japan Visualmedia Translation Academy Co., Ltd.

〒103-0021
東京都中央区日本橋本石町3-2-4
共同ビル(日銀前)2F/3F
TEL : 03-3517-5002
FAX : 03-3272-5057

ロサンゼルス校
3510 Torrance Blvd., Suite 219, Torrance, CA 90503 U.S.A.
TEL : 1-310-316-3121
FAX : 1-310-316-2411

JVTA®

日本映像翻訳アカデミー
入学案内

J A P A N
V I S U A L M E D I A
T R A N S L A T I O N
A C A D E M Y

プロの映像翻訳者になりたい。そのドラマをあなたと創る。

If your dream is to become a
we can help you

professional visualmedia translator,
make it come true.

人 生において、英語の習得に多くの時間を捧げている人を育て支える。
当校が1996年に開校して以来、変わらぬ強い想いです。

プロへの道は簡単ではありません。途中、挫折や葛藤もあるでしょう。
しかし、だからこそ、人生が輝き、ドラマになるのです。

「99%は大変だけど、残りの1%が本当に楽しい」
映像翻訳の仕事は、想像以上に大変です。

「伝えたい、どうすればもっと伝わるか、より伝わる言葉は？」
夢に見るぐらい、悶々と悩む日々が続きます。

でも、それだけ悩む価値がある仕事です。
映画の面白さを伝えるのは、ハリウッド俳優や監督だけではなく、
作り手と観客をつなぐ映像翻訳者なのですから。

ジグソーパズルと違って、映像翻訳に正解はありません。
しかし、自分の言葉が映像にピタリと重なった時の達成感は、他では味わえません。
1%の楽しさを追いかけてみませんか。
映像翻訳は、一生を賭すに値する仕事です。

JVTAスタッフ一同

S ince our founding in 1996, it has been our foremost mission to support those who
have dedicated a large part of their lives to mastering the English language.

The path to becoming a visualmedia translator is not easy. You may face hardships and
obstacles along the way, but they will only make your dream shine brighter.

As a professional, you will learn to work under tremendous pressure. Though 99% of it may
feel like a struggle, that last 1% will be nothing short of pure joy.

At times, you may lose sleep over a translation for a particular phrase. “Which word is the
perfect fit?” “How can I connect with the audience?” You may find these questions even
appearing in your dreams.

But all of your struggles will pay off in the end. After all, actors and film directors are not the
only ones who connect with the audience – visualmedia translators play a pivotal role in
providing entertainment.

Unlike a jigsaw puzzle, there is no one right answer in visualmedia translation. That’s what
makes it all the more exciting when your words match up perfectly with what’s on screen.
Come discover that 1% of pure joy. Make visualmedia translation your lifetime pursuit.

JVTA Staff



映像翻訳者と共に 世界をつなぐ、未来を創る

英語の習得に人生を重ね、これからもそうありたいと願う方々が、その力を最大限に生かせる仕事に出会うこと——。

日本映像翻訳アカデミー (Japan Visualmedia Translation Academy=JVTA) は、1996年の創設以来、この思いを唯一無二のミッションとして受講生を支えてきました。映像翻訳者の育成と就業支援に特化した職業訓練校として多数のプロフェッショナルを社会に送り出し、修了生と共に実績を積み上げています。

「時代の変化」に応じて 拡大する映像翻訳ニーズ

グローバル化とデジタル化、今、2つの大きな変化が映像翻訳の需要をさらに押し上げています。

世界中の映画やドラマ、ドキュメンタリー・音楽・スポーツ・バラエティ・生活情報番組を、誰もが手軽に、大量に視聴できる環境が整いつつあるのです。また、企業や公益団体、大学などは情報発信の急速な映像化を進めており、映像翻訳者の事業領域は拡大中です。さらに、

We are committed to introducing anyone who has dedicated a large part of their lives to English learning to a profession that will help them realize their full potential.

Since the Japan Visualmedia Translation Academy (JVTA) was founded in 1996, our one and only mission has been to support our students' careers. As a vocational academy specialized in educating and producing professional visualmedia translators, we, alongside our students and alumni, continue to establish a proven track record in the industry.

Changing times drive the growth of visualmedia translation needs

Two major shifts – globalization and digitalization – are driving the demand for visualmedia translation.

Infrastructure today has made it possible for anyone to easily consume a plethora of films, dramas, documentaries, and music, well as

Designing a future to connect the world with visualmedia translators

聴覚や視覚に障がいがある方々のために総務省が推し進めている「バリアフリー字幕・音声ガイド」分野にも、多くの映像翻訳者が参入しています。今後はさらに多様なフィールドで映像翻訳の力が求められるでしょう。

注目すべきもう1つの動きは「日英映像翻訳」事業の発展です。日本が持つ豊かな映像コンテンツを世界に向けて発信する「クールジャパン戦略」は、国が力強く支援する一大ビジネスに

発展しつつあります。JVTAはこうした動きに先立ち、2008年には東京校とロサンゼルス校で日英映像翻訳者育成メソッドを確立。日本の映画やドラマ、アニメーションなどの日英映像翻訳に携わる多くのプロを輩出してきました。

一人ひとりのキャリアプランに合った学び方を提供

JVTAは受講生一人ひとりに対してプロ化

までのロードマップを明確に示します。

東京校への通学はもちろん、通学が難しい方には株式会社アルクとの共同事業により世界のどこにお住まいでも受講可能な「映像翻訳Web講座」を開発。また、映像コンテンツ制作の本場であるロサンゼルス校では、現地の通学生をはじめ、M-1ビザ（職業訓練学生ビザ）で渡米した留学生が学んでいます。そして修了後には、すべての修了生に平等なトライアル（プロ試験）

の機会を提供しています。

時代の変化を楽しみ、学び取った力で社会を豊かにしたい、「言葉のプロ」として働き続けたい——。そんな思いを抱いている方は、ぜひ一度、JVTAを訪れてください。

日本映像翻訳アカデミー／代表
新楽直樹



variety and lifestyle television programs from around the world. The market for visualmedia translation is booming as corporations, public interest groups, universities, and other entities shift toward communicating via visualmedia content. In addition, many visualmedia translators are breaking into the fields of closed captioning and audio guidance for people with visual or hearing impairments, which the Ministry of Internal Affairs and Communications is advancing. This is only the cusp of an even greater number of fields for which visualmedia translation skills will be in demand.

Another noteworthy trend is the expanding need for Japanese to English visualmedia translation. Since the implementation the Cool Japan Strategy, the Japanese government has

ignited a vast business expansion helping creators bring rich visualmedia content like films, dramas, and anime to the world. At the forefront of this trend, JVTA established a curriculum for Japanese-English visualmedia translation in 2008 at both the Tokyo and Los Angeles campuses. Many of the professionals involved in visualmedia translation for Japanese content are our alumni.

Professional training customized to each individual's career path

JVTA guides each student along a clear road map to their professional debut.

We not only offer courses at our Tokyo campus but have also developed a visualmedia translation course in partnership

with ALC Press, Inc. that can be taken online from anywhere around the world. At our Los Angeles campus, located near the epicenter of visualmedia production, students can study abroad on vocational training student visas (M-1 visas). After finishing our program, all graduates are given the opportunity to take a trial examination to become a professional translator.

We at JVTA welcome anyone with an appreciation for the changing times who is looking to enrich society with a unique set of skills and pursue a career as a linguistic professional.

Naoki Niira, President
Japan Visualmedia Translational Academy Co., Ltd.

本パンフの使い方

パンフレットは映画の三幕構成になぞらえて作りました。

Act1 JVTA VISION
Act2 JVTA COURSE
Act3 JVTA STYLE

ハリウッド映画の大半は「三幕構成」で作られています。三幕とは「Act1セットアップ(設定)」「Act2 コンフリクト(葛藤)」「Act3 レゾリューション(解決)」です。

Act1のセットアップでは、当校代表の新楽から「JVTAのミッションと映像翻訳業界の未来」、職業訓練校としての強みと映像翻訳者になる魅力のエッセンスをお伝えします。

Act2のコンフリクトでは「プロになるまでの流れ」と当校のコースとカリキュラムを紹介します。コンフリクトはドラマに欠かせない要素です。葛藤を乗り越えた先に「デベロップメント(発展、成長)」があるからです。

Act3 のレゾリューションでは、JVTAスタイルと称し、我々の強みを改めて紹介。スタイルとは、どんな困難な状態でも貫ける「自分らしさ」という意味です。最後に、悩みや困難に直面しつつも、自ら一步を踏み出し、スタイルを確立した修了生の声をお届けします。

修了生の6割が

プロとして仕事ができる理由



修了生の6割がプロの翻訳者として活躍できる理由は、映画会社やテレビ局などから映像翻訳業務を受注し、プロとなった修了生に仕事を発注するメディア・トランスレーション・センター(MTC)を運営していることです。MTCは受託した映画、ドラマ、ドキュメンタリー番組などの翻訳業務の全てを修了生に依頼。デビュー直後からすぐにプロとしてのキャリアが積めるようにしています。さらに依頼に関しても、できるだけ修了生の希望する働き方やキャリアプランに応じた内容のものを選ぶようにしています。



プロデビューするには規定のコースを受講後、修了トライアルに挑戦し、合格する必要があります。たとえ、このトライアルに不合格の場合でも、オープントライアルに再挑戦することができます。実践コース修了時に行われるトライアルの合格率は2割程度ですが、その後、約2ヵ月に1度行われるオープントライアルなどを含めるとトータルでは6割の修了生がデビューに至ります。

プロになった後は、業務を進行管理するMTCディレクターが丁寧に仕事の進め方を指導していくので安心して仕事に臨めます。



海外の作品を日本語に翻訳する英日映像翻訳は、東京校への通学コースの他、米国にあるJVTAロサンゼルス校、英語教育に定評のあるアルクとJVTAが開発・運営するeラーニングで学べる映像翻訳Web講座で学ぶことができます。日本の作品を英語に翻訳する日英映像翻訳も東京校への通学か、ロサンゼルス校に留学して学ぶことが可能です。また、英文解釈力や日本語表現力、英語表現力を集中的に強化するコース、苦手としているスキルの強化やトライアル対策などを目的とした課外講座も充実。受講生一人ひとりのプロの道を多彩なコースで後押しします。

映像翻訳者の魅力

デジタル化とグローバル化の進展により、言葉で世界をつなぐ映像翻訳者のニーズは増え続けています。それに伴い、海外の映像を日本語に訳す英日映像翻訳者の活躍するステージがより広がりを見せています。

日本の映像作品を海外に発信する動きもますます加速しています。アニメやマンガといったクールジャパンが世界を席巻する中で、日本の作品を英語に訳す日英映像翻訳の機会は日を追うごとに拡大中。にもかかわらず日英映像翻訳者の絶対数は不足しているため、活躍の場は無限大にあるといえるでしょう。



映像翻訳の仕事の魅力は、パソコンとインターネットがつながる環境があれば、時間や場所にとらわれず仕事ができることです。「子育てをしながら手の空いた時間に翻訳をする」「海外で生活しながらドラマの翻訳をする」。そんなライフスタイルも実現できます。実際に小さなお子さんを育てながら翻訳に取り組んでいる方、フランスへの移住という夢のために映像翻訳を学び、それをかなえた方もいます。

長く活躍できることも魅力です。翻訳にはさまざまな人生経験を生かせることから、「年齢を重ねた方に仕事がない」ということもありません。



英語と映像が好きなら、どんな人でもプロになれるチャンスがあります。英語力はあるにこしたことはありませんが、それはプロになるために必要な要素の1つにすぎません。それよりも、映画やドラマが大好きでよく見ている、日本語の文章を書くのが好きといった方が数多くプロの映像翻訳者になっています。

プロになった後のキャリアも多様です。専門の映像翻訳者として活躍している方はもちろん、会社勤めをしながら翻訳者としても仕事をしている方、学んだ知識を生かして映画会社やマスコミ業界、海外の企業に転職した方もいます。

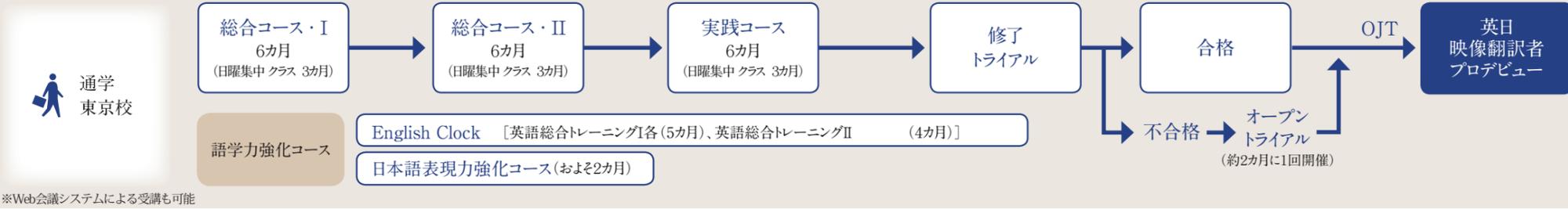


入学からプロになるまでの流れ

入学前 通学場所・受講形態 受講可能なコース トライアル 念願のプロに

英日映像翻訳コース 海外の映像を日本語に翻訳する

英日映像翻訳科



映像翻訳Web講座

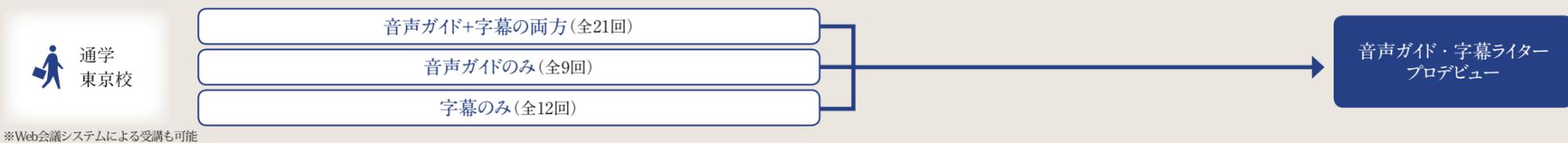


日英映像翻訳コース 日本の映像を英語に翻訳する

日英映像翻訳科

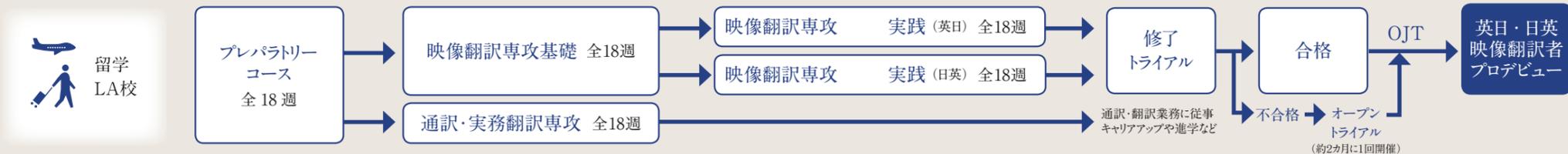


バリアフリー視聴用 音声ガイド&字幕ライター養成講座



ロサンゼルス校 映画の本場に留学して学ぶ

M-1ビザ留学コース



最短9カ月でプロデビューも

コースは大きく3つあります。海外の映像作品につける日本語字幕や吹き替えの台本を作成する翻訳者を目指す「英日映像翻訳科」。日本の映像作品につける英語字幕などを作成する「日英映像翻訳科」。米国のロサンゼルスに留学して映像翻訳や通訳・実務翻訳を学ぶ「M-1ビザLA留学コース」です。

プロになるまでの流れを受講者が最も多い「英日映像翻訳科(東京校・通学)」を例に説明します。プロになるには「総合コース・I」「総合コース・II」「実践コース」の順番に3コースを受講します。受講期間はそれぞれ約6カ月。実践コース修了後にトライアルを受験し、合格すると1カ月間におよぶOJTを経てプロとしてデビューします。

トライアルに不合格の場合でも心配無用です。約2カ月に1回開催するオープントライアルに合格すればプロになることができます。短期間での修了を目指す方は、1日2コマの講義を受け、1コースを3カ月で修了する日曜集中クラスなら最短9カ月でプロになることが可能です。

「日英映像翻訳科(東京校・通学)」でプロになる流れも同じです。総合コース、実践コースを受講した後、トライアルに挑みます。

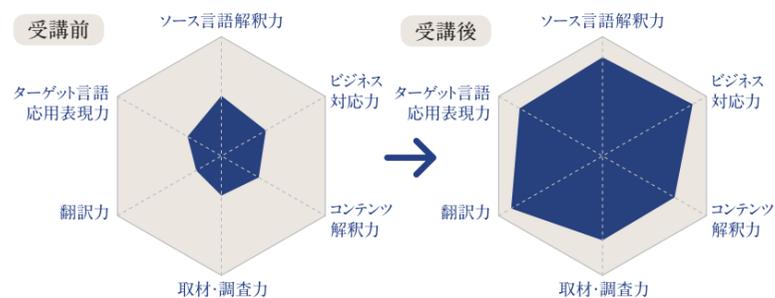
ロサンゼルス校への留学コースには、映像翻訳専攻と通訳・実務翻訳専攻があり、英語力に自信のない方に向けたプレパラトリーコースも用意しています。

各コースの詳細は、12ページのインデックスを参考にご覧ください。

オープンスクール、スクール説明会、個別相談のいずれかに参加(必須)

プロを育てるメソッド

Point 1 ゴールから逆算してカリキュラムを編成



全てのコースに共通するのは、プロになるというゴールから逆算してカリキュラムを組んでいることです。修了生に仕事を発注するための部門であるMTCを持つ強みを生かし、プロの現場に必要なスキルを把握。それらを基に「映像翻訳者に必要な6つの資質」を定義し、バランス良く学べるようになっています。修了時、スキルアップしている自分に驚くはずですよ。

Point 2 「知識→演習」の繰り返しで実践力を養う

	総合コース・I	総合コース・II	実践コース
知識	目的 映像翻訳とは何か、エッセンスを学ぶ 講義 知識が中心。後半は基礎的な演習を行う	目的 プロに必要なスキルを網羅的に学ぶ 講義 複数の翻訳手法を習得する実践的な演習	目的 プロに必要な質・量をこなせるようになる 講義 模擬発注などプロを想定した演習が多い
演習	学習時間* 10時間 指導 楽しむことを優先し、良いところを伸ばす 英語力の目安 不問	学習時間* 15時間 指導 視聴者を想定したフィードバック 英語力の目安 TOEIC 730点	学習時間* 20時間 指導 顧客への納品を意識したフィードバック 英語力の目安 TOEIC 800点

*課題、自己学習を含む1週間あたりの推奨学習時間の目安

講義の進め方の特長は、必要な知識を学んだ後、すぐに演習を行うことで効果的にスキルアップができることです。コース間の難易度を徐々に上げることで確実にステップアップできるように工夫しています。左は英日映像翻訳科の3コースの違いを記したものです。実践コースはクライアントを想定した模擬発注形式の講義を行い、リアルに備えます。なお、進級は各コース修了時の面談や評価を踏まえて、ご自分で決めることができます。

Point 3 先進的な指導メソッドと親身な個別フォロー



チーム翻訳とは、複数人で翻訳することで、スムーズなデビューの機会を与える他、チーム内での情報共有やフィードバックによって高い学習効果が得られます。反転講義は事前課題に取り組み、講義ではそれを基に発展的な内容に取り組むことで効率的にスキルアップします。全クラスにチューターをつけ、個別フォローも親身に行います。

JVTA 全コース紹介

英日映像翻訳科

1

- 総合コース・I p13~
- 総合コース・II p15~
- 実践コース p17~
- 映像翻訳Web講座 p19
- 音声が付&字幕ライター養成講座 p20
- English Clock p21
- 日本語表現力強化コース p22

日英映像翻訳科

2

- 総合コース p23~
- 実践コース p25~

ロサンゼルス留学

3

- ロサンゼルス校留学コース p27~

プロを目指す人から憧れの英語で働きたい人まで

英日映像翻訳科 総合コース・I

主な受講対象者

- ・映画・英語に興味がある
- ・はじめて映像翻訳に触れる
- ・英語力は不問

学習到達目標

- ・基本的な字幕・吹き替えのルールを学ぶ
- ・自分で字幕を作ってみる
- ・映像翻訳の種類を学ぶ

総合コース・Iのカリキュラム

- 全16回開催（※基礎マスター 6回と応用トレーニング10回）、受講期間6カ月（※日曜集中クラスは3カ月）
- 基礎マスター（初回～6回分）だけの受講も可能

主なカリキュラム

基礎的な知識	映像翻訳概論入門	翻訳スキルの基礎①・②	日英映像翻訳概論と作品解釈	
基礎的な演習	字幕翻訳のルール	字幕翻訳の基礎①・②	吹き替え翻訳の基礎 (ボイスオーバー・リップシンク)	日本語表現力の基礎
応用的な知識	字幕翻訳の演習①・②	字幕制作ソフトの演習(初級)		
応用的な演習	日英字幕翻訳	映像翻訳者に求められる仕事への対応力		

※全16回。ここで紹介していない講義の詳細は、当校のホームページでご確認ください。

海外の映画やテレビドラマなどを翻訳する映像翻訳者を目指す際、最初に受講していただくのが「総合コース・I」です。

とにかく楽しんで、映像翻訳のエッセンスを学ぶ

このコースの目的は、楽しみながら映像翻訳のエッセンスを学ぶこと。ハリウッド映画や海外の人気ドラマ、ドキュメンタリー番組などさまざまな映像素材に触れて、映像翻訳者に必要な知識やスキルをじっくりと学びます。

プロの映像翻訳者になるために欠かせないのが「素材」である映像が好きであるということ。海外の映像を観るのが好きで、その魅力を多くの人に伝えたい。その気持ちがあれば、プロになる資格は十分です。英語力は二の次で大丈夫。

もちろんプロになる時点で相応の英語力は必要ですが、本コースは楽しんで学べることを最重視し、英語力の

不足によって講義についていけなくなるようなカリキュラムを組んでいません。

講義内容は、まず映像翻訳業界の成り立ちや仕組みを学び、次に「字幕 1 画面に表示する文字数は14字以内」といった字幕翻訳の基本的なルールなどを学びます。

その上で簡単な演習に入ります。短い映像を題材に、英文のスク립ト（セリフなどを書き起こしたもの）を使い、字幕を作ります。

総合コース・Iの講義は全16回です。最初の6回分だけを受講できる制度もあり、試しに受講して映像翻訳の楽しさや適正を確認した後、残りの10講義を申し込むことも可能です。また1日に2コマの講義を行い、通常6カ月の受講期間の半分にあたる3カ月で修了できる「日曜集中クラス」もあります。ご自分の希望やライフスタイルに応じて選んでください。



講師がアドバイス

誰かに伝えたい気持ちが プロへの出発点になる



映像翻訳ディレクター
藤田奈緒

国連UNHCR難民映画祭の字幕制作総合ディレクター。ジャンルを問わず、数々の映像作品を手がけている。

プロの映像翻訳者になる出発点は、素材に興味を持ち、その面白さを誰かに伝えたいと思う気持ちです。

例えば、海外のテレビドラマや映画が大好きで、暇があったら観ている。その作品の何が面白いのかを、自分なりに分析して、それを友達に話したり、ブログやSNSなどで発信したりしている。そんな人は、プロの映像翻訳者になる資質を十分に兼ね備えていると思います。

映像翻訳者に求められる能力として、作品解釈力があります。解釈という言葉は辞書で引くと「意味や内容を解きほぐして明らかにする」「物事や言動について、自分なりに考えて理解すること」などとありますが、映像翻訳者に求められる作品解釈力も正しく同じです。

翻訳という仕事柄、英語力は必要です。文法や単語の意味を理解し、誤訳しない、独りよがりの翻訳にならないように客観視する力なども必要です。しかし、そうした力は当校のコースを受講する過程で自然と身につきます。

映像翻訳者になった瞬間、あなたは作品を単に見る側から「作り手」へと変わります。作品の背景を理解し、ニュアンスを直感的にくみ取った翻訳ができるときの爽快感はたまりませんよ。



修了生からのエール

こんなに面白いとは 正直思わなかった

2014年4月期
英日総合コース・I 修了
新倉満理さん



高校生のころに戸田奈津子さんの存在を知って以来、ずっと映像翻訳には興味を持っていました。

総合コース・Iを受講して分かったのは、映像翻訳という「言葉」で表現する世界には、ゴールがないということ。だからこそやりがいを感じ、本当に面白い世界だと実感しました。

印象深い講義は「日英字幕翻訳」「作品解釈」「日本語表現力の基礎」の3つ。日英翻訳と作品解釈は初めて習うことばかりですがごく興味深かったのと、日本語表現力はその後の学習へのモチベーションがとて高まりました。



COLUMN

まずはオープンスクールで体験

映像翻訳の魅力を半日で体験するというコンセプトで開催しているのがオープンスクールです。

プログラムは業界ガイド「映像翻訳の“いま”と“これから”を知る」

「プロが指南！日本語字幕体験レッスン」「スクール説明会」など盛りだくさんです。

お申し込みは電話又はホームページから。ぜひ、気軽にご参加ください。



プロになるために必要な知識とスキルを全て学ぶ

英日映像翻訳科 総合コース・II

主な受講対象者

- ・英日映像翻訳科 総合コース・I 修了生
- ・映像翻訳Web講座プラクティスコース修了生
- ・TOEICのスコアの目安730点

学習到達目標

- ・映画・ドラマ・ドキュメンタリー番組など多様なジャンルへの対応力を身につける
- ・視聴者を意識した原稿の書き方を学ぶ

総合コース・IIのカリキュラム

- 全21回開催、受講期間6カ月(※日曜集中クラスは3カ月)

主なカリキュラム

基礎的な知識	映像翻訳概論	作品解釈①	日英字幕翻訳
基礎的な演習	翻訳演習①～③	字幕翻訳の演習①・②	吹き替え翻訳基礎 (リップシンク①・②、ボイスオーバー①) 日本語表現を磨く
応用的な知識	フリーランサーとしての働き方		
応用的な演習	字幕制作ソフトの演習 (中級①・②)	字幕翻訳の演習③・④	吹き替え翻訳基礎 (ボイスオーバー②・③)

※全21回。ここで紹介していない講義の詳細は、当校のホームページでご確認ください。

総合コース・IIの目的は、プロになるために必要な知識やスキルを網羅して学ぶこと。本コースの受講修了時には、プロとして仕事ができるレベルまで引き上げます。

でも臆する必要はありません。カリキュラムを見れば、講義テーマは総合コース・Iと大きくは変わりません。異なるのは、演習で使う映像の難易度です。

まず、課題映像の時間が伸びます。1分程度の場合、極論すれば、英語を日本語に置き換えるだけで翻訳できるのに対し、それが数分ともなると前後のシーンやストーリー全体をつかむ作品解釈力が求められます。また視聴者を意識した翻訳も必要で、それを効果的に伝えるために日本語表現力を磨く必要もあります。

6つの資質をバランス良く伸ばしてプロに導く

当校では、映画配給会社やテレビ局などから映像翻訳業務を

受注するメディア・トランスレーション・センター(MTC)を併設する強みを生かし、プロとして活躍できる力を「映像翻訳者に求められる6つの資質」として定義。その中に「ソース言語解釈力」「翻訳力」「ターゲット応用表現力」が含まれていますが、総合コース・IIではプロになるというゴールから逆算して演習課題を設定し、6つの資質をバランス良く伸ばせるようカリキュラムを組んでいます。

もう1つの特長が、吹き替え翻訳もしっかり学ぶこと。「映像翻訳＝字幕制作」と想像する人は多いですが、興行収入が250億円を超えた映画『アナと雪の女王』は吹き替え版の観客が約半数を占めているなど、実態は大きく違います。それを知らず、字幕翻訳だけを学び、吹き替え翻訳を経験せずにプロになってしまったら獲得できる仕事の半分を失うことになってしまう可能性もあります。映像ジャンルに応じて、適切な手法で翻訳できる力を養います。



講師がアドバイス

スキルから作品理解まで 演習を重ねて総合力を養う



映像翻訳ディレクター
石井清猛
英日・日英翻訳のディレクションや海外映画祭でのワークショップなどを担当。

総合コース・IIの目的は、総合コース・Iで学んだ知識やスキルを土台にして、より専門的な演習を積み、プロになるための訓練を本格的に行う実践コースへと橋渡しすることです。

総合コース・IIになると総合コース・Iよりも課題映像の時間が伸びます。たかが数分と思うかもしれませんが、映像翻訳に求められるスキルや知識はより深く、広範になります。調べ物をする力、前後の流れからストーリーをつかむ力、それらを伝える日本語で表現する力などです。

映像の時間が伸びたことで、最初

は課題に取り組むのが大変だと思いません。しかし、この大変さを乗り越えた先に、映像翻訳の醍醐味が待っています。単なるワンシーンを翻訳するのではなく、作品への理解や制作者の意図をくみ取りつつ、多くの人に伝わる言葉で翻訳する。そこに自分の感性や創造性を投影できるからです。

コース修了時にはスポッティングや吹き替え音声翻訳などのスキルから、映像の構成や背景を読み解く力まで、映像翻訳に必要な“総合力”が養われていることが実感できるはずです。



修了生からのエール

講義内容も課題も 全てがレベルアップ

2013年4月期
英日総合コース・II修了
数田真里さん



総合コース・Iと比べて、講義内容のレベルが上がっていると感じました。総合コース・Iで習ったことをしっかりと理解していることが前提となるので、家に帰ってから以前に使っていたノートを引っ張り出して、復習したこともあります。

ついていくのが大変な講義もありましたが、「翻訳演習」や「吹き替え翻訳の演習」(リップシンク)は本当に興味深く、楽しく学習できました。

総合コース・I時代は、「私は本当に映像翻訳者に向いているのかな?」とばかり考えていましたが、「プロになりたい」と決意できた半年間でした。



課外講座の充実も大きな魅力

当校では9～10ページに掲載しているコースのほかにも、多くの「課外講座」を行っており、受講生やプロとして活躍する修了生のスキルアップを促進しています。「英文解釈

力」「リサーチ」「字幕ソフトの使いこなし」などがテーマの定番講座から、外部講師や世界で活躍する映画監督を呼んで行うものまでさまざま。課外講座の充実もJVIAの大きな魅力です。



模擬発注などプロ仕様の実践講義でデビューに挑む

英日映像翻訳科 実践コース

主な受講対象者

- ・英日映像翻訳科 総合コース・II 修了生
- ・映像翻訳Web講座アドバンスコース修了以上
- ・TOEICのスコアの目安800点

学習到達目標

- ・プロとしての実務フローを習得する(量・スピードへの対応力、チーム翻訳)
- ・原稿の完成度を上げ、プロとして通用するレベルを目指す

実践コースのカリキュラム

- 全22回開催、受講期間6カ月(※日曜集中クラスは3カ月)

主なカリキュラム

専門的な知識	仕事のノウハウ(プロデビューに備えて)		
実務的な演習	吹き替え翻訳の演習 (リップシンク演習①・②)	吹き替え翻訳の演習 (ボイスオーバー演習①・②)	翻訳演習(応用)
模擬発注	模擬発注(ボイスオーバー①・②)	模擬発注(字幕①～④)	

※全22回。ここで紹介していない講義の詳細は、当校のホームページでご確認ください。

総合コース・IIの受講を修了した時点で、多くの受講生は映像翻訳のルールや手法は理解しており、時間をかければ翻訳できる状態になっています。

実践コースの目的は、映像翻訳の質と量の両方を高め、修了後すぐにプロとして活躍できることです。プロに限られた時間の中で精度の高い翻訳をする必要があり、そうなるために実践的な演習を重ねてレベルアップを図ります。

課題映像のレベルは一段と上がります。2回の講義で30分番組を丸々1本題材とする場合もあります。番組1本ともなると翻訳力に加え、ストーリーの構造を理解したり、全体のトーンやマナーを揃えて翻訳したり、作品の背景を理解するためにリサーチしたりと、より広範で高度なスキルが必要とされます。

実践コースは、講師からのレクチャーは最低限にとどめて、受講生が行った課題に対して、クライアントへの納品を

意識したレベルのフィードバックやクラス内でのディスカッションなど、ワークショップ主体の講義となります。

「模擬発注」形式の講義でプロの水準に引き上げる

コース後半では、模擬発注形式の演習を繰り返します。さらに字幕制作ソフトの高度な使い方やフリーランサーの営業方法など、実践的なテクニックやノウハウを教えて、プロデビューできる水準まで引き上げます。

講義回数が全22回というタフな行程を終えたら、全ての修了生がトライアルに挑戦できます。合格した場合は、約1カ月間のOJTを経た後、MTCから業務を委託され、プロデビューを果たします。デビュー後は、希望する映像ジャンルや好きなテーマをMTCのディレクターと相談しながらキャリアアップを図ることができます。



講師がアドバイス

トライアル不合格でも 的確な指導で再チャレンジ



映像翻訳ディレクター
桜井徹二

本科の講義のほか、高校・大学など学校教育機関でも講義を担当している。

実践コースの修了時に行う修了トライアルの合格率は、全体の2割程度です。少ないと思うかもしれませんが、約2カ月に1回の頻度でオープントライアルを実施しており、そこで受かる方も含めると、最終的に修了生の6割前後がプロデビューを果たします。

この6割という数字の理由の1つに、トライアル受験者をフォローする当校独自の体制が挙げられます。

例えば、トライアルの受験者に対して行う「フィードバック」。受験者全員の原稿を「英文解釈」(誤訳や訳出不足などがあつたか?)、「日本語表現」

(不自然な表現などはないか?)、「コンテンツ解釈」(作品の構成や背景を理解できているか?)、「取材・調査」(しっかりと裏取りができていますか?)など、「映像翻訳者に必要な6つの資質」に基いた項目で細かく評価します。その結果を、本人にフィードバックすることで、自分の原稿の何が良くて、何が悪かったのかがはっきりと分かり、苦手な項目を集中的に学習できます。また、次点の合格者には、MTCスタッフからスキルアップの方法などを直接、フィードバックします。



修了生からのエール

プロとしての責任感が 芽生え、全力投球できた

2017年10月期
実践コース修了

土橋由梨さん



実践コースは、デビュー後を想定した“模擬発注”の講義が中心です。あらゆる映像素材を使った演習で、プロとしての姿勢と視点を養います。講義を重ねるごとに、自分の訳文の精度が上がっていく実感があります。課題の難易度も上がり、力不足だと悩んだこともありました。でも、苦しんだ分だけ言葉選びの感覚が鋭くなり、生産性も上がるため、やがて手ごたえを感じられました。「クライアントに対して、全ての訳を論理的に説明できるようにする」という講師の言葉でプロとしての責任感が芽生え、毎回の課題に全力投球することができました。



COLUMN

映画祭はスキルアップに格好の場

日本のみならず世界中で行われている映画祭。社会問題を扱ったものから、その国の映画を集めたものなどがあり、JVTAもさまざまな形で関わっています。映画祭の翻訳には、多数の翻訳

者が必要となるので、新人翻訳者が参加できる機会も多くあります。経験を積むいい機会というだけでなく、自分の手がけた作品が会場の大きなスクリーンで上映されるのも魅力です。



自宅で映像翻訳の学習をしたいという方に

映像翻訳Web講座

ベーシック、プラクティス、アドバンス、プロフェッショナル

主な受講対象者

- ・洋画や海外ドラマが大好き
- ・英語力を生かして映像翻訳の分野で活躍したい
- ・自宅で映像翻訳を学びたい

学習到達目標

- ・ベーシックコース&プラクティスコース…映像翻訳の基本テクニックを学ぶ
- ・アドバンスコース…セリフを字幕毎に区切るスキルを身につける
- ・プロフェッショナルコース…「量」にも対応できる精度の高い翻訳技術の習得

映像翻訳Web講座のカリキュラム

- 受講期間は、ベーシックコース3カ月、プラクティスコース6カ月、アドバンスコース7カ月、プロフェッショナルコース6カ月
- いつでもお申し込みが可能

各コースの主なカリキュラム

ベーシックコース	字幕の基本ルール (ショートフィルム/字幕)	吹き替え翻訳の基本ルール (自然ドキュメンタリー/ボイスオーバー)	
プラクティスコース	字幕制作ソフト実習 (自然ドキュメンタリー/字幕)	字幕制作ソフト実習 (短編映画/字幕)	吹き替え翻訳 (ショートフィルム/リップシンク)
アドバンスコース	吹き替え翻訳 (ドキュメンタリー/ボイスオーバー)	字幕翻訳の実践 (短編映画/字幕)	
プロフェッショナルコース	模擬発注 (野生生物ドキュメンタリー/字幕)	模擬発注 (野生生物ドキュメンタリー/ボイスオーバー)	模擬発注 (ショートフィルム/字幕・リップシンク)

※字幕と吹き替えのスキルをもう一度磨きなまし、プロとして通用するレベルにまで高めるスキルアップコース・字幕/スキルアップコース・吹き替え(ボイスオーバー)もご用意しています。

映像翻訳Web講座は、「英辞郎 on the WEB」「1000時間ヒアリングマラソン」など英語教育で実績のあるアルクとJVTAが共同運営するプロの英日映像翻訳者を養成するeラーニングの通信講座です。いつでも学習をスタートすることができ、パソコンがあれば、世界中どこにいても受講ができます。

本コースの大きな特長は、最短22カ月間で、プロの映像翻訳者に挑戦できるということ。ベーシックコース(3カ月)からスタートし、プラクティス(6カ月)、アドバンス(7カ月)、プロフェッショナル(6カ月)の順で修了すれば、通学の英日映像翻訳科の修了生と同じようにトリアルを受験することができ、それに合格すれば、JVTAのMTCから仕事が発注されます。

ネット上で提出した課題は、プロの映像翻訳者が添削し、きめ細かくフィードバック。また、コース修了時には、

JVTAスタッフによる個別相談や、通学コースへの転入の相談などにも対応しています。ベーシックコースでご自身の適性を測ってみたいという方にもおすすめです。

修了生からのエール

これほど手厚くフォローしてくれる講座は他にありません

地元・北海道で主に海外ドラマやアニメ作品の字幕翻訳をしています。この講座の魅力は、課題を添削してくれるプロが「質問シート」を通して疑問に一つひとつ丁寧に答えてくれるところ。さまざまな通信講座を調べましたが、これほど手厚くフォローしてくれるところは他にありません。自信を持っておすすめしたい講座です。



2015年修了
山崎真子さん

映像をバリアフリーにする

バリアフリー視聴用 音声ガイド&字幕ライター養成講座

主な受講対象者

- ・映画やドラマが好きの方
- ・映像翻訳スキルを生かしたい方
- ・映像コンテンツに関わる仕事がしたい方

※詳しい受講対象者資格は当校のホームページでご確認ください。

学習到達目標

- 音声ガイドやバリアフリー字幕を必要とする方のニーズを把握し、基本ルールを踏まえながらも、固定観念にとらわれずに工夫をすることができる力を身につける

音声ガイド&字幕ライター養成講座のカリキュラム

- 受講期間6カ月
- 音声ガイドのみ、字幕のみの受講も可能

各コースの主なカリキュラム

音声ガイド	場面転換	登場人物の紹介の仕方	情景描写	セリフとのコンビネーション	モニター検討会
バリアフリー字幕	話者名の表記における配慮	セリフ以外の音情報の伝え方	テレビ放送用クローズドキャプション制作演習		

※ここで紹介していない講義の詳細は、当校のホームページでご確認ください。

目や耳の不自由な人たちが映像を楽しめるように、人物の動きや場面転換などの視覚情報を音声で解説する「音声ガイド」と、セリフやナレーション、音楽や効果音の説明、話者名などを文字で表す「バリアフリー字幕」の制作スキルを学ぶ講座です。

カリキュラムは、映像コンテンツのバリアフリー化に取り組むNPO法人、メディア・アクセス・サポートセンター(MASC)のバックアップのもとに構築されており、プロの制作者としての心構えや技術を習得することができます。

講義では、ほぼ全ての回に課題が出されます。講義中には受講生同士のディスカッションの時間を多く設け、自ら考える力を養います。音声ガイドのクラスでは、「当事者の声」を知り、原稿に反映するトレーニングとして、視覚障がい者を招いた「モニター検討会」を導入していることも大きな特徴です。

講座修了後、優秀な成績を取った受講生には優先的に仕事が発注されます。プロデビュー後も、JVTAバリアフリー事業部のプロデューサーとディレクターが直接指導を行い、継続的なサポートをします。

修了生は、映画やテレビ、DVD/Blu-rayなどの既存メディア

に加え動画配信サイトにおいて、ドラマやアニメ、時代劇、スポーツなどさまざまなジャンルで、音声ガイドディスクライター、字幕ライターとして活躍しています。

「日本のドラマや映画が好き」、「ボランティアの経験を生かしてプロのスキルを身につけたい」、「子育てや介護をしながら在宅で仕事をしたい」という方のほか、「映像翻訳のスキルを生かして新たなキャリアにしたい」という方にもおすすめの講座です。

修了生からのエール

ディスカッション中心の講義スタイルで思考力アップ

難聴になった母と字幕つきでテレビ番組を見るうちに、バリアフリー字幕の必要性を強く感じ、この講座を受講しました。福島から毎週通学するのは大変でしたが、先生方やクラスメートたちとディスカッションを重ねる講義スタイルで、字幕制作に必要な思考力を鍛えることができました。現在は元々好きだったアニメやバラエティの字幕制作を手がけています。



2017年4月期
字幕ライター養成講座修了
武田和佳奈さん

映像翻訳に必要な英語力を伸ばす

English Clock

英語総合トレーニングI、英語総合トレーニングII

主な受講対象者

- ・現在の英文解釈力に自信がない
- ・基礎から英文法を徹底的に学びたい
- ・英文解釈力を強化したい

学習到達目標

- ・基礎的な文法力・構文理解力を身につける
- ・長い英文でも話の筋を見失わずに読める
- ・プロの映像翻訳者に必要な「思考法」を身につける

English Clockのカリキュラム

- ・英語総合トレーニングIは全18回、英語総合トレーニングIIは全15回開催
- ・JVTAでの受講経験がない方の受講も可能 ※英語総合トレーニングIIは受講条件あり

各コースの主なカリキュラム

英語総合トレーニングI	文法基礎事項確認	スラッシュリーディング	エッセーを訳す	インタビュー記事を訳す
英語総合トレーニングII	英文解釈・翻訳 概論	ドキュメンタリー番組の SCRIPT を訳す (全訳、VO原稿作成、字幕制作など)		

※英語総合トレーニングIは全18回、英語総合トレーニングIIは全15回。ここで紹介していない講義の詳細は、当校のホームページでご確認ください。

本コースは、プロの映像翻訳者に求められる英文解釈力を徹底的に鍛え、翻訳に必要な思考法を身につけることを目的としています。受講生のレベルに応じた2つのカテゴリーがあり、英語総合トレーニングIは「文法+長文解釈」、英語総合トレーニングIIは「長文解釈上級+字幕演習」となっています。

英語総合トレーニングIは、翻訳学習を進める上で英語力に不安を覚えている方のためのクラス。基礎的な文法の確認からスタートし、複雑な構文を的確に分析できる力を身につけます。講義内で、新聞記事、エッセー、インタビュー記事などさまざまな英文を使用しながら、最終的にはまとまった長さの英文をストーリー展開に注目しながら読めるようになることを目指します。

英語総合トレーニングIIは、一定の翻訳学習を終えた方がより高い英文解釈力を身につけるためのクラス。講義内では、ドキュメンタリー番組のSCRIPTを全訳し、正しく解釈した上で字幕やボイスオーバーの原稿を作っていきます。

このコースの大きな特長は、出来上がった訳文の良し悪しを見るだけでなく、その表現にたどり着いた根拠を一つ

ひとつ確認していくことです。原文を正しく理解しないまま日本語を綺麗に整えようとしてもロジックが成り立たなくなってしまうからです。English Clockでは、少人数制のクラスならではの丁寧な指導により、課題でのエラーや自身の弱点にじっくりと向き合うことができます。映像翻訳の本科のクラスでは聞くのをためらってしまうような初歩的な質問にも対応します。English Clockで、高い英文解釈力を身につけ、英語力に自信をつけてください。

修了生からのエール

良い字幕をつくるには 原文を貫く理屈の理解が大切

印象深かったのは主任の山根講師がよく使っていた「理屈」という言葉です。字幕作りの前にまず原文の全訳に時間をかけることで、一文一文の意味だけでなく、訳全体の流れを意識し、表現が「理屈」に合っているかを考えられるようになりました。トライアルでも映像のテーマを常に意識しながら字幕を作り、合格することができました。



2016年4月期
旧 English Clock・Category-3
西飯仁徳さん

映像翻訳者やビジネスパーソンに必須の高い日本語力を徹底して磨く

日本語表現力強化コース

主な受講対象者

- ・プロとして通用する日本語ライティングを習得したい
- ・いまで身につけた日本語力をブラッシュアップしたい
- ・ビジネスパーソンとしてもっと高い日本語力を身につけたい

学習到達目標

- ・プロの映像翻訳者として活躍できるだけの日本語ライティングのスキルを身につけている
- ・編集者、ライターレベルの日本語ライティングができる

日本語表現力強化コースのカリキュラム

- ・全8回開催、受講期間はおよそ2カ月
- ・JVTAでの受講経験がない方の受講も可能

主なカリキュラム

プロの知識	日本語表現の基本	文章のテクニックを学ぶ	キャッチコピーから学ぶ表現力	
短期上達演習	映画紹介記事を書く①・②	新刊紹介コラム・書評を書く	インタビュー記事を書く	自選の記事を書く

※全8回。ここで紹介していない講義の詳細は、当校のホームページでご確認ください。

本コースは、当校の代表者である新楽直樹とプロの編集者としても活躍する主任講師の丸山雄一郎が、講義毎に用意した課題を通して受講生全員の日本語表現力のアップを目指していきます。

プロとして活躍する英日の映像翻訳者や翻訳ディレクターが、映像翻訳者に必須な要素としてまず挙げるのが「英語の解釈力」と「日本語の表現力」の2つです。その中でも特に日本語の表現力は重要だといわれています。英日作品のアウトプットは日本語であり、その作品を観る観客や視聴者は翻訳者の生み出した表現によってしか、作品の良し悪しを判断できないからです。極論すれば、英日の映像翻訳者の評価は、日本語表現力によって決まると言ってもいいでしょう。

講義毎の課題はさまざまですが、常に課題原稿の掲載先を設定し、その読者にとって本当に興味深く、分かりやすい表現になっているのかを指摘し、より適した表現を生み出すための方法をフィードバックしていきます。また、文章を作っていく上で必要な「文の構成」や「文法」などについてもお教えしていきます。「伝わる表現」を生み出していくためのテクニカルな面にフォーカスした内容です。

他の翻訳スクールにはないJVTA独自の本コース。映像翻訳者としてのスキルだけでなく、会社の業務、趣味のブログといった文章に携わる全てに、この講義での経験が生きるはずで、日本語の表現力に不安を感じている方に、また、もっと高い日本語表現力を身につけることを目指している方におすすめです。JVTAの受講生・修了生以外の方の受講も可能です。

修了生からのエール

日本語力を鍛えたことで 念願のトライアルに合格

修了後の目標が、プロの編集者・ライターレベルの日本語表現力を身につけることなので、課題や講義内容のレベルが高く、最初の頃はついていくのが大変でした。でも、そのおかげで日本語力が大きく伸び、念願だったトライアルにも合格できました。短期間で翻訳者としての力を伸ばしたいという方には絶対におすすめですよ。



2014年修了
本庄由香里さん

世界が注目するクールジャパンを発信したい人へ

日英映像翻訳科 総合コース

主な受講対象者

- ・日本のコンテンツに興味があり、それを海外に発信したい
- ・ネイティブスピーカーの話す内容を理解できる
- ・TOEICのスコアの目安730点

学習到達目標

- ・英訳の方法論、作品解釈などの基礎スキルを身につける
- ・字幕、吹き替え、マンガ翻訳などの各手法の基礎を理解する

総合コースのカリキュラム

- 全21回開催(※基礎マスター 8回と応用トレーニング13回)、受講期間6カ月
- 基礎マスター(初回～8回分)だけの受講も可能

主なカリキュラム

基礎的な知識	日英翻訳概論	英語字幕のルール	日英翻訳の基礎		
基礎的な演習	ストーリーテリング①	ボイスオーバー	実写劇映画字幕①		
応用的な知識	コンテンツプロモーション				
応用的な演習	短編映画字幕	台本	企業VP字幕	インタビュー/ドキュメンタリー字幕	予告編字幕

※全21回。ここで紹介していない講義の詳細は、当校のホームページでご確認ください。

日本の映画やドラマ、アニメやマンガなど日本語の映像コンテンツを英訳する日英映像翻訳者を目指す方が、まず受講するのが「総合コース」です。

圧倒的に不足している日英映像翻訳者

日本のコンテンツの評価は、世界で高まり続けています。政府が進める「クールジャパン戦略」もあり、日英翻訳業務のニーズは倍々ペースで増加。急増するニーズに対して、翻訳者の数は圧倒的に不足しています。

当校は、2008年に他のスクールに先駆けて東京校とロサンゼルス校で日英映像翻訳者を育成するコースを立ち上げ、多数のプロを輩出しています。

日英映像翻訳科の強みは英語ネイティブの講師陣です。邦画の英語字幕を手がけている講師はもちろん、企業のCMやプロモーション映像を数多く手がけている講師や、

日本の人気マンガの翻訳を中心にしている講師など、その世界の第一人者が揃っています。また、日本に長く在住している講師も多く、日本語への理解と実際の視聴者・読者である英語ネイティブの感覚の両方を熟知しており、日英翻訳を学ぶには最適な人材といえます。

カリキュラムも多彩です。長編・短編映画、映画の予告編、ドキュメンタリー作品、マンガ、企業VP、映画の台本など、実践コース修了後の実際の仕事に直結するさまざまなコンテンツの翻訳について学ぶことができます。

英日と比べ、視聴者の数が格段に多いということも日英映像翻訳者の大きな魅力です。非英語圏の国の人であっても英語で作品を見ている人は世界中に数多くいます。そういった人たちに翻訳した作品を届けることができるのです。

日英映像翻訳科総合コースは、日本のコンテンツが好きで、世界にそれを発信したいという方におすすめです。



講師がアドバイス

日本人のあなたにこそ チャレンジしてほしい



映像翻訳者

南 久美子

日本の長編・短編映画、バラエティ番組やドラマ、映画祭カタログ、企業VPの翻訳など幅広く手がける。

私も日英映像翻訳科の修了生です。現在は講師として総合・実践両コースの講義を受け持つほか、1人の映像翻訳者として、さまざまなコンテンツの翻訳案件を手がけています。

本コースの魅力は講師陣です。邦画の英語字幕や吹き替えを手がけている講師が多いのはもちろんですが、映画の制作やプロモーションに精通していたり、マンガやアニメの翻訳を数多く担当している講師もいます。

日英映像翻訳は「英語ネイティブじゃないとできない」と思われるかもしれませんが、活躍している修了生の多くは、

英語や映画が好きで非ネイティブの日本人です。日本の作品を海外に伝えるには文化や文脈の理解が必須なので、日本人が力を発揮するチャンスが大いにあるのです。また、海外の映画祭などで英語字幕つきの作品を観る人の大半は母国語が英語以外の人々です。字幕にシンプルで分かりやすい英語(グローバルイングリッシュ)が求められるのも頷けます。

日英映像翻訳は日本人であるあなたにこそチャレンジしてほしい領域です。日本の作品に詳しくなくても、今から興味を持って観始めればきっとその魅力を海外に届けることができます。



修了生からのエール

講義を夢中で受けているうちに 気づけば不安は消えていた

2015年4月期
総合コース修了
佐藤慶子さん



翻訳に関心があって、日本のコンテンツが好き。その思いで、総合コースに飛び込みました。自分の英語が映像翻訳に通用するか心配でしたが、チャレンジングで情報量も多い講義の面白さに引き込まれて、気づけば不安は消えていました。

コースで学んだ翻訳への具体的な取り組み方はプロとなった今に生きています。映像とストーリーを掘り下げ、それを伝える言葉を選ぶことが仕事には必須です。

映像と言葉への情熱があれば、苦しいことがあっても、乗り越えて勉強を続けられます。厳しくも楽しい日英映像翻訳の世界に、ぜひ挑戦してみてください。



COLUMN

日本映画の作り手たちが待ち望む日英映像翻訳者

海外上映を想定して撮影に取り組む映画の作り手が増えています。そんな彼らが一緒に仕事をしたいと思っているのが、日英映像翻訳者です。グローバルな映画祭に作品を出品す

るためには英語字幕が必須。日本の作品の魅力を海外の観客に伝えられる人材が求められています。日英映像翻訳のスキルを身につければ、日本映画と海外との懸け橋になれます。



ジャンル別に演習を重ねて、すぐにプロデビュー

日英映像翻訳科 実践コース

主な受講対象者

- ・日英映像翻訳科 総合コース 修了生
- ・プロの日英映像翻訳者を目指したい
- ・英語力を仕事に生かし、キャリアアップを図りたい

学習到達目標

- ・プロの日英映像翻訳者として活躍できるだけの知識、スキルを身につける

実践コースのカリキュラム

- 全21回開催、受講期間6か月

主なカリキュラム

専門的な知識	フリーランサーの営業術		
実務的な演習	実写劇映画字幕①～⑦	ボイスオーバー①・②	マンガ
模擬発注	模擬発注(字幕)①	模擬発注(字幕)②	模擬発注(字幕)③

※全21回。ここで紹介していない講義の詳細は、当校のホームページでご確認ください。

日英映像翻訳科の実践コースの目的は、クライアントを想定した模擬発注形式の演習を繰り返し、受講生の知識とスキルをプロの水準に高めることです。

日英翻訳の難しさの1つに、(日本人である)自分が翻訳した英語字幕が、海外の観客や視聴者に適切に伝わっているのかという判断がしにくいことがあります。ここでも役立つのが講師陣です。日本人講師も含めた講師全員がネイティブの英語や海外の視聴者の心情を知り尽くしています。そうした講師たちから、自分が制作した英語字幕に対してフィードバックを受け、それをもとに講師や同じクラスの受講生たちとディスカッションすることは、スキルアップには欠かせない作業です。

演習を通じて、ストーリーのストラクチャー(構造)やストーリーテリングの理解も深まるでしょう。例えば、映画内の「おつかれさま」というセリフの1つでさえ、前後の

シーンやストーリーによって意味が異なります。複雑なストーリーを読み解き、日本のことを知らない海外の人たちに伝えることができた時の嬉しさは大きいはずです。

文化の枠を超えて、日本の作品のメッセージを伝える

修了するころには作品ごとに視聴者層が異なることを理解し、それぞれに合った英語表現を選び、分かりやすく伝えるスキルが身についているでしょう。制作者の意図を正しく表現するスキルを養っておけば、作品のテーマに沿った訳を視聴者に届けることができます。例えば、独特な言葉が飛び交う、日本の歴史にまつわる映像作品。それが教養を深めるためのドキュメンタリーでも、ストーリーを楽しむための時代劇でも、ふさわしい言葉で訳し、正しく内容を届けるのが、プロが手がける英語字幕です。日英映像翻訳者は文化の枠を超えて日本の作品のメッセージを伝えます。



講師がアドバイス

日本のコンテンツの英語字幕は ニーズが高まり続けている



映像翻訳ディレクター
ジェシー・ナス
フジテレビ系テレビ番組の英語字幕ディレクションや、邦画の海外映画祭出品業務に携わる。

「日本語字幕と比べて、英語字幕は触れる機会が少ない。どうやったら自主的に知見を深めることができるのか」――。

そんな声をよく聞きます。私がおすすめしたいのは、グローバルに展開するオンライン動画配信サービスで、日本のコンテンツを英語字幕つきで見ることです。世界中の人に向けられたプラットフォームですから、英語字幕がついている作品がたくさんあります。英語字幕つきの日本のコンテンツが広がっている動きは、日英映像翻訳の仕事がこれからさらに増えることを意味しています。動画配信事業者が日本発のオリジナルコンテンツ

制作に力を入れ始めた点も注目です。

本コース修了生の活躍の場は、映画やドラマだけに留まりません。例えばマンガの日英翻訳。日本のマンガファンが世界中にいることは周知のことですが、ビジュアルやセリフ、ストーリーで伝えるマンガの翻訳は日英映像翻訳者こそが求められる領域です。今はメジャーな作品も英語版やバイリンガル版が出ているので、ぜひ手に取ってみてください。

映像作品に興味があって、英語で書くことが好きな人に、プロとして活躍してほしいのが日英映像翻訳です。あなたの翻訳を海外の日本ファンが待っています。



修了生からのエール

演習を通じてどんな仕事にも 対応できる力がついた

2015年4月期
実践コース修了
大前夕香さん



演習を通じて身につけるスキルは、どれも実際の仕事で使うものばかり。映画やドラマだけに限らず、マンガや映画祭カタログ、企業VPなどあらゆるメディアの翻訳手法を学ぶので、どんな仕事にも対応できるようになりました。修了後、すぐにプロとして活躍できたのはこのコースで学んだ日々があったからこそだと実感しています。見るのは海外の作品ばかりで、今まで日本のコンテンツを知る機会が少なかった方も、毎回の課題を通じてその魅力に触れることができます。だから、安心して日英映像翻訳のキャリアをスタートさせてください。



COLUMN

トライアル合格前にプロの仕事を実感する実践形式のゼミ

日英映像翻訳科の実践コース修了生が参加できる課外講座の1つが英語字幕PROゼミです。講師やMTCディレクターからの指導を受けながら、実際に国内外の映画祭で上映される日

本の映画やアニメに英語字幕をつけるという講座です。手分けして作業を進める“チーム翻訳”は、多くの翻訳案件で採用されているスタイル。一足先にプロの仕事を実感できます。



ロサンゼルス校留学

主な受講対象者

- ・ロサンゼルスで集中して英語力を伸ばしたい
- ・英日・日英の映像翻訳、通訳、実務翻訳を総合的に学びたい
- ・アメリカ文化に触れ、理解を深めたい

学習到達目標

- ・プロの英日・日英映像翻訳者として活躍できるだけの知識、スキルを身につける
- ・通訳、実務翻訳の基礎的なスキルを身につける

ロサンゼルス校のカリキュラム

- 映像翻訳専攻基礎、映像翻訳専攻実践、通訳・実務翻訳専攻のいずれも受講期間は約6カ月
- プレパラトリークースは、1週間からの短期留学が可能

各コースの主なカリキュラム

映像翻訳専攻基礎	映像翻訳概論～入門	字幕翻訳の基礎	吹き替え翻訳の基礎	英語字幕のルール
映像翻訳専攻実践(英日)	吹き替え翻訳(リップシンク)	日本語字幕(ドラマ)	吹き替え翻訳(ボイスオーバー)	日本語字幕(情報番組)
通訳・実務翻訳専攻	逐次通訳演習基礎	翻訳技法基礎	英日・日英逐次通訳	英日・日英翻訳
プレパラトリークース	パブリック・スピーキング	ライティング	通訳の基礎	翻訳の基礎

※授業の詳細は、当校のホームページでご確認ください。

職業訓練を目的とするM-1ビザを取得して米国にあるJVTAロサンゼルス校に留学するコースです。映像翻訳専攻と通訳・実務翻訳専攻があり、映像翻訳専攻では字幕・吹き替えなどの映像翻訳のスキルを養い、プロの映像翻訳者を目指します。東京校ではコースが分かれている英日映像翻訳と日英映像翻訳の基礎をロサンゼルス校では、集中的に約半年間で学ぶことができます。また、ロサンゼルス校独自の通訳・実務翻訳の基礎もカリキュラムに含まれており、英日・日英の映像翻訳、通訳、実務翻訳という英語を使った職業スキルを幅広く習得することを目標としています。基礎コース、実践コースを修了すればトライアルの受験資格を得ることができ、トライアルに合格すれば、プロの映像翻訳者としてデビューできます。

通訳・実務翻訳専攻は、通訳クラスと実務翻訳クラスの授業を週に2つずつ受け、プロの通訳者・実務翻訳者に

必要な基礎スキルを身につけていきます。通訳クラスでは、幅広い分野の教材を用いて、英語から日本語へ、日本語から英語への逐次通訳訓練を行います。実務翻訳クラスでは、契約書やビジネス文書など実践的な教材を用いて、正しい原文解釈力や翻訳の基礎力の強化を図ります。

英語力に不安のある方向けのコースも

本格的な翻訳・通訳トレーニングを受けたいが、英語力に不安があるという方に向けたコースが、プレパラトリークースです。独自のプログラムによって「リスニング」「スピーキング(プレゼンテーション)」「リーディング」「ライティング」といった総合的な英語力の向上を図ります。コース修了後は進級判定が出れば、映像翻訳専攻、通訳・実務翻訳専攻課程を受講することができます。また、プレパラトリークースは1週間からの短期留学が可能です。



講師がアドバイス

理想的な学習環境で“言葉のプロ”を目指す



映像翻訳ディレクター
当麻さやか
JVTAロサンゼルス校で
映像翻訳ディレクターおよび
講師を務めている。

語学留学をする方が増えている昨今、「英語ができる」だけではグローバルな仕事に就くのは難しい時代です。しかし、翻訳や通訳の専門スキルを身につけることで、その可能性を大きく広げることができます。

ロサンゼルス校では、独自の実践的カリキュラムを通じて、これまでに受講生が培ってきた英語力を映像翻訳者、実務翻訳者、通訳者として通用するレベルに引き上げ、帰国後に「言葉のプロ」として活躍できるよう講師・スタッフ一同が全力でサポートします。

ロサンゼルス校のあるトーランス市はロサンゼルス空港から車で20分の位置にあり、海にも近く、過ごしやすい気候です。また、日系企業も多く、全米でも有数の安全な街として知られています。日系のスーパーやレストラン、病院、小売店なども多く、留学初心者にも安心の環境です。

私もロサンゼルス校へ留学し、プロの映像翻訳者になる夢を果たすことができました。今では、講師として自らの経験を生かした指導を心がけています。英語の環境に身を置いて、プロに必要なスキルを身につけてください。



修了生からのエール

LAで学んだ全てが“仕事力”になりました

2017年
映像翻訳専攻修了
伊納華さん



英語の環境に身を置きながら学ぶために、留学を決めました。滞在先では、英語は性別や世代、性格によって使う言葉やトーンが異なることを体感。英日翻訳でのカジュアルな口語の訳に対する苦手意識を解消できました。留学している間、英語字幕付きの日本映画が上映されていたり、ローカライズされた日本製品を見かけたりした時はうれしかったです。私も日英翻訳という形で、日本を発信する力になりたいと思いました。通訳の講義では訳す際の瞬発力が向上。今後も留学での学びを生かして、英日と日英の両方でキャリアを積んでいきたいです。



COLUMN

留学生生活をFacebookでチェック

ロサンゼルス校のFacebookページでは、現地の魅力的な情報を多数アップしています。

ロサンゼルスでの留学生活の様子や特別映画イベントの参加レポート、映像

翻訳に役立つ英語表現など、話題が満載。留学がより身近に感じられるはずです。ロサンゼルス校に興味がある方は「いいね!」を押して、投稿をチェックしてください。



受講前に抱きがちな不安を 講師4人がアドバイス



修了直後にプロ試験を実施 「学び」と「仕事」をつなぐ

日本映像翻訳アカデミー代表
新楽直樹



学んだ後に仕事があるのだろうか。そう不安に思う方もいるでしょう。しかし、心配することはありません。

当校は英日、日英コースともに最終コースを受講した後、トライアル(プロ試験)に合格した修了生に対して、修了生のための就業支援部門であるメディア・トランスレーション・センター(MTC)から仕事を依頼する体制を整えています。

「せっかくプロとして通用するスキルを身につけても、すぐに生かす場がなければキャリアを積み重ねることができない」。そう考えているからです。

下表はMTCの主な取引実績です。映画配給会社やテレビ局はもちろん、AOLなどの大手ネットメディア、国際映画祭の主催者など多岐に渡っています。MTCが受託した翻訳業務の多くは、デビューして3年以内の修了生が担っています。当校なら受講生の段階から「修了後には新人翻訳者でも活躍できる場がある」ことを実感できると思います。

デジタル化とグローバル化が進む中、映像翻訳のニーズは英日、日英とも拡大しています。2015年には世界最大規模のビデオ・オン・デマンドサービス会社が日本上陸

を果たしました。また、MOOC(Massive Open Online Course)のように、世界的に有名な大学の授業や有名スピーカーによるプレゼンテーションをネットで視聴できる機会も増えています。

日英翻訳の拡大については言うまでもありません。政府が力強く推進するクールジャパン戦略や、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催によって、映像翻訳者を求める声はいつそう高まるのが予想されます。

映像翻訳の力でグローバル社会の創造に貢献しましょう。



プロに必要な力を6つに分解 効果的にスキルアップを図る

MTCプロデューサー
浅川奈美



翻訳者の育成という「習うより慣れる」「とにかく場数を踏む」といった職人的な世界をイメージする人も多いと思いますが、私たちはそれでは「プロになるまでの時間が必要以上にかかってしまう」と考え、プロになるまでのロードマップを明確に示すことに努めています。

その1つが映像翻訳者に必要なスキルの体系化です。当校ではプロの映像翻訳者に必要なスキルを「6つの資質」として定め、それらをバランス良く伸ばせるようにカリキュラムを組んでいます。6つの資質とは、「ソース言語解釈力」「翻訳力」「コンテンツ解釈力」「ターゲット言語応用表現力」「取材・調査力」「ビジネス対応力」からなっています。

例えば、英日映像翻訳の場合、ソース言語解釈力は「メディアコンテンツ(翻訳素材)における生きた英語を理解できるスキル」。コンテンツ解釈力は「メディアコンテンツの構成・背景を理解し、作り手の意図を把握するスキル」。ターゲット言語応用表現力は「視聴者・読者を想定し分かりやすく的確な日本語を使って表現するスキル」と定めています。

映像翻訳のプロセスを分解して、上に挙げた3つの力の必要性を解説します。英日映像翻訳では、ネイティブ視聴者に向けて作られた海外映像の魅力や面白さを、英語が分からない日本人に伝える必要があります。そのためにまず必要なのが、映像の魅力を理解するための英語解釈力です。映像翻訳はそこにある英語をただ訳すだけでは作品の面白さは伝えられません。セリフ1

つを訳すにしても物語全体の流れや、俳優の演技や表情によって伝えるべきニュアンスは異なるからです。

それに加えて、映像全体を理解するコンテンツ解釈力も求められます。映画で言えば三幕構成などのストラクチャーや構成を理解することで、作品の世界観や制作者の意図などをより深くくみ取ることができるからです。くみ取った世界観や意図を、的確な日本語で伝える日本語表現力も大切です。同じ

日本人でも性別や世代によって伝わる日本語表現は異なります。想定した視聴者により伝わる日本語表現を考える必要があります。

難しそうな映像翻訳のプロセスも分解することで、やるべきことが見えてきます。当校では各々の講義に学習目標を設定し、講師は、6つのうちの力を伸ばすかを意識して講義を行っています。受講生へのフィードバックでもそれを意識し、効果的なスキルアップを目指しています。

主な取引実績(五十音順)

企業や教育、公的機関

アルク	ソースネクスト	フランクリン・コヴィー・ジャパン
朝日新聞社	ソニー・ピクチャーズエンタテインメント	ベネッセコーポレーション
伊東商工会議所	ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル	ポニーキャニオンエンタープライズ
伊東観光協会	ティファニー・アンド・カンパニー・ジャパン・インク	毎日コミュニケーションズ
AOL	電通	読売新聞社
エイベックス・エンタテインメント	電通クリエイティブX	リクルートホールディングス
IMAGICA	TBSテレビ	映画祭・映像翻訳支援プロジェクト
NHK(日本放送協会)	東映アニメーション	恵比寿映像祭
NHKエンタープライズ	東京芸術大学	UNHCR難民映画祭
HJホールディングス	東京大学	したまちコメディ映画祭 in 台東
クリーク・アンド・リバー	東京都	ジャパン・フィルム・フェスティバル(アメリカ)
慶応義塾大学	東宝	ショートショートフィルムフェスティバル&アジア
公益社団法人国際厚生事業団	独立行政法人 日本貿易振興機構	SKIPシティ国際Dシネマ映画祭
国連難民高等弁務官事務所	20世紀FOX ホーム エンターテイメント ジャパン	東京国際映画祭
ジェイ・スポーツ・ブロードキャスティング	日本テレビ	トーキョー ノーザンライツ フェスティバル
ジャパンタイムズ	パイアコム・ネットワークス・ジャパン	ニッポン・コネクション(ドイツ)
ジュビターテレコム/ジュビターTVカンパニー	Perform Investment Japan	ブラジル映画祭
松竹	FOXインターナショナル・チャンネルズ	レインボー・リアル東京
世界銀行	フジテレビジョン	



JVTAのカリキュラムは、独自に定めたプロの映像翻訳者に必要な「6つの資質」に基づいて構成されています

FILE
3

プロの映像翻訳者にとって 必要な英語力とは?

映像翻訳者
山根克之



映像翻訳を学ぼうかと考えている方にとって、気になるのが英語力でしょう。JVTAでは、各コースの受講の目安としてTOEICの点数を挙げています。あえて「目安」としているのは、プロの映像翻訳者になるための英語力は、TOEICの点数では判断できないからです。事実、JVTAに入校した時のTOEICの点数は600点台前半でしたが、現在ではかなりの数の作品を手がけている翻訳者の方もいますし、海外での生活が長く、900点以上という点数があっても、なかなか芽の出ない方もいます。

私がプロの映像翻訳者を目指す方にとって大事だと考えているのは、「原文を完璧に理解する」ということです。原文の

意味を100%理解しないまま、自分の理解だけで翻訳を進めると、訳文のロジックが破たんし、その破たんを補おうと、原文にはない言葉を付け足していくことになります。そうすることで、ますます原文の意味から離れる訳文ができあがるのです。

原文を完璧に理解しないまま翻訳を進めようという人は、実は英語力に自信があるという人に多くみられます。感覚的にある程度の解釈ができるので、分からない箇所は、分からないまま、「何となく処理してしまっている」のです。そしてこの手のタイプの人は、総じて文法と構文への理解を軽視しがちです。しかし、原文を完璧に理解するためには、文法と構文への深い

理解が必要なのです。

受講生の皆さんには、私がプロに必要な英文解釈力についてお教えします。文法と構文への理解をしっかりと身につけることがプロへの第一歩となります。では、いままでの話を踏まえて、1つ問題を用意しました。下図の英文は、あるドラマのワンシーンです。ベビーシッターをしていた男性2人組が赤ん坊を連れて外出中にナンパに夢中になり、バスの中に赤ん坊を置き忘れてしまいます。交通局の預り所に迎えに行くと、似たような赤ん坊が2人並んでベッドに寝ていました。その時、男性の1人がもう1人に向けて言ったセリフです。さあ、文法と構文に注意して挑戦してみてください。

問題

Please tell
me you know
which one is
our baby.



解説

【解説】「どっちがオレたちの赤ん坊だ？」と訳してしまいがちですが、それだと原文の意味から少し外れてしまいます。tell meして欲しいのは「which one is our baby」ではなく、「you know which one is our baby」です。ここにはセリフを言った男性の「オレには分からないけど、お前には分かるよな？ 分かると言ってくれ」という切羽詰まった気持ちが表れているわけです。それを表現するなら、「見分けつくだろ？」などとなります。

FILE
4

ライフステージに応じて 働き方を選択できる

映像翻訳ディレクター
板垣七重



最後に気になる収入とワークスタイルについてお話ししましょう。

当校の強みは修了生の6割がプロデビューを果たすことですが、その後のワークスタイルはさまざまです。専門の映像翻訳者として活躍されている方ももちろん、会社勤めをしながらプロの映像翻訳者として活躍している方、子育てや親の介護などを理由に月に1~2本程度の番組の翻訳を行っている方など、ご自分が希望する働き方を選んでいきます。収入はワークスタイルに応じてある程度決まってきます。映像翻訳を専門にしている方の場合、収入は年間およそ300~800万円ほどです。会社に勤めながら

という方の場合、翻訳に取り組む量にもよりますが、年収50~250万円ぐらいでしょうか。会社勤めの方の場合、平日の夜や週末を使って翻訳に取り組むことになるため、自由な時間は減ってしまうかもしれませんが、会社からの収入の他に、翻訳で収入が得られれば、経済的に余裕のある生活ができるはずですよ。

次に翻訳1本当たりのギャランティについてです。映像翻訳のギャランティは10分単位で支払われる場合がほとんどです。例えば、50分の番組を毎月4本翻訳した場合の収入を計算してみましょう。10分当たりの翻訳料を1万5000円として計算すると、50分番組を1本翻訳

してもらえる翻訳料は7万5000円です。それを毎月4本翻訳した場合、月収は30万円、年収は360万円になります。50分番組を毎月4本翻訳するのはキャリアが浅いうちは簡単ではありませんが、慣れてくれば十分にこなせる仕事量です。

映像翻訳者の魅力は、ライフステージや場所を問わず働けること。子育てで忙しい時は仕事量を減らし、子供が独立して時間に余裕ができれば仕事量を増やすなど働き方を柔軟に選べます。パソコンとネットに接続できる環境があればどこでも翻訳ができるため、地方在住や海外在住の方でも問題なく仕事ができます。



修了生から

それでも、 私が一步を歩みだした理由



映像翻訳を学んでみようと思ったのは、時間が有り余っていたから。高校卒業後、大学に行かず、就職もしていなかったので、習い事の一つとして字幕作りを学んでもいいかなと軽い気持ちで学校説明会に参加しました。

いまでも覚えているのは、「JVTAは映像翻訳のプロを目指す人を全力でサポートします」というスタッフの方の言葉。カリキュラムや講師陣の充実ぶりも魅力でしたが、何よりスタッフの方たちの「熱さ」に刺激を受けました。

入学を決め、実際に学んでみると、一番痛感したのは、自分の知識の少なさ。翻訳をする時には、原文に出てくる言葉や、作品の背景などを理解するために、さまざまなことを調べなくてはいけないのですが、当時19歳だった私はあまりに世間知らずで、何から何まで調べないと分からないという状態でした。このままでは早晩みんなについていけなくなると考え、総合コース・Iを修了後に休校。大学に進むことを決め、そこから受験勉強を始めました。幸いなことに第一希望の大学に合格し、3年生の秋にJVTAに復帰。大学卒業から1年後にトライアルに合格できました。

自分の作品が世に出た時の大きな「喜び」。そんな感動が味わえるようになったのも映像翻訳をJVTAで学んだからだとかから感じています。

PROFILE

英日映像翻訳実践コース
2011年4月期修了
永島沙友里さん

大学卒業後に情報サービス会社に就職。現在は会社員として働きながら、ドラマ、リアリティ作品などの人気番組を数多く担当している。

英日映像翻訳科、日英映像翻訳科、M-1ビザLA留学コースを終えた修了生5人に「なぜ、映像翻訳を学ぼうと思ったのか?」「JVTAを選んだ理由」を聞いてみました。きっと皆さんの今後の参考になると思います。



CASE

2

情熱をかたむけられる 仕事をしたかった

大学卒業後に2年間アメリカに留学していたので、帰国後は英語を使った仕事をしたと、外資系の広告代理店に就職しました。ところが英語を使う機会はほとんどなく、仕事は凄まじいまでにハード。何より仕事の内容にあまり魅力を感じる事ができず、3年半で退職し、家でゆっくりTVを見ることのできる生活に。そこでたまたま出合ったのがアメリカの人気クライムドラマ。このドラマにすっかりハマってしまい、同じようなドラマをむさぼるように見続けました。

全て字幕版で見ていたのですが、ある時、主人公がジョークを言うシーンがあり、その字幕が私的にはいまひとつ気に入らない。

私なら「こう作るな」と何気なく考えた時に、「そうだ！字幕を作る仕事をした」と突然、思い立ち、すぐに映像翻訳が学べるスクールを探しました。JVTAを選んだのは、他校よりも修了後のフォローをしっかりともらえるシステムがあったから。中でも「修了後は、JVTAだけでなく、幅広く活躍して欲しい。そのためには実績が必要。その実績を作るためにMTCがあるんです」という説明には感動すら覚えました。

最近はスポーツ番組の翻訳を担当することが多いのですが、筋書きのないドラマの連続に感動してしまうシーンが多く、翻訳しながら号泣することも度々(笑)。

後で恥ずかしくなりますが、それだけ気持ちを込められる仕事をやれていることに幸せを感じています。

PROFILE

英日映像翻訳科実践コース
2011年4月期修了
河田美緒さん

仕事の依頼が途切れない人気翻訳者の一人。得意分野はスポーツ番組。野球、バスケット、サッカー、アメフト、ヨットなど幅広い知識を駆使して翻訳に臨んでいる。

CASE

1

「仕事につながるスクール」 だから入学を決めた



CASE

3

日英翻訳者の活躍の場が どんどん増えている

日英映像翻訳科に入学したのは、TV局で日本のニュースを英訳する仕事を始めて3年目の時でした。報道の世界では、使える表現などに厳しい決まりがあるため、もう少しカジュアルな翻訳がしたかったのと、どうせなら大好きな日本映画に字幕をつけられるくらいになりたいと考えて日英を選びました。

ただ、普段の仕事で英語は使っているものの、留学経験もなかったため、本当にいまの英語レベルでやっていけるのか？ プロになれるのか？ といった心配はありました。

実際に講義を受け始めて分かったのは、日本の作品を翻訳するには、やはり日本の文化や歴史といった作品の背景にあるものを深く理解していないとダメだということ。それが分かってからは、英語により磨きをかけることと並行して、いままで以上に日本映画を観たり、本を読むようにしたりしました。さまざまな知識が増えていったことで、講義にも自信を持って臨めるようになりました。

プロになって驚いたのは、とにかくMTCからの仕事の依頼が多いこと。ドキュメンタリー番組や教育用の映像、マンガなど、次から次へと仕事を頂き、仕事が途切れたことはありません。TV局での仕事を続けながら、映像翻訳者としても仕事をするのは正直、大変な時もありますが、好きなことを仕事にできているという充実感は何物にも代えがたい喜びです。今後はより翻訳者としてのスキルを上げられるよう日々、努力しています。

PROFILE

日英映像翻訳科
実践コース2012年10期修了
平井喬也さん

大学の受験勉強中に英語の面白さに気づき、大学在学中は英語研究会に所属。現在は、TV局で日本のニュースを英語に翻訳するかたわら映像翻訳者として活躍中。

CASE

4

帰国後も仕事に役立つ それが留学先選びの条件

大学で国際関係や貧困、NGOについて学び、海外フィールドワークなども行っていたので、卒業したら絶対に留学したいと思っていました。しかし、さまざまな事情もあり、大手の生命保険会社へ就職。でも、海外への思いが捨てきれず、3年で退社し、留学することを決めました。

留学先を探す上で条件としていたのは、高い英語力を身につけられることと、それ以上に帰国後もすぐに役に立つスキルを学ぶこと。語学学校では英語しか学ばせんとし、大学院での勉強がすぐに役立つ分野は少ないと考え、職業訓練校であるロサンゼルス校を選びました。

私が学んだコースは全日制で、英日・日英の映像翻訳の授業の他にも、通訳や実務翻訳の授業があり、平日はとにかく課題に追

われる毎日。初めて学ぶことばかりだったので、授業中も緊張の連続でした。それでも徐々に学校やロサンゼルスでの生活に慣れ、週末は同じ留学生や滞在先のホストファミリーと、ビーチに行ったり、買い物に出かけたりと楽しいアメリカ生活を送ることができました。帰国後に就職した財団法人では英語を使う機会も多く、ロサンゼルス校での学習がすごく役立っています。

PROFILE

M-1ビザLA留学コース2014年修了
稲田有希子さん

留学後は、身につけたスキルを生かして国が所管する財団法人に就職。通訳・翻訳のほか、留学生受け入れ担当としても活躍している。



CASE

5

スタッフ、一流講師との 距離の近さが魅力

現地でJVTAロサンゼルス校と出会い、英日・日英映像翻訳、実務翻訳、通訳のスキルを学びました。今は字幕翻訳に限らず、記事やウェブサイト、本の翻訳も手がけています。ジャンルはビジネス、スポーツ、マンガなどさまざまです。

日本語を全く話せなかった私が翻訳者になってみようと思った始まりは、日系2世の祖父の言葉、「自分のルーツに誇りを持って」と子どもの頃から教えられてきた私は、高校

で学ぶ外国語として日本語を選び、大学に入った後も勉強続けました。日本の留学も経験し、ここまで学んだのだから、日本語を生かせる仕事に就きたいと考えるようになったのです。

JVTAに入学する際は自分の日本語力で授業についていけるか不安でしたが、スタッフのほとんどが修了生であることの安心感や、業界の最前線で活躍する講師らとの距離の近さに後押しされて受講を決めました。「未経験の仕事でもできるだけ挑戦した方がいい」という講師のアドバイスがあったから、仕事の幅も、人脈も広がったと実感しています。これからはさらにスキルを磨いて、自分のルーツである日本の魅力を、言葉の壁を越えて世界に伝えていきたいと思っています。日本が世界中から注目を浴びる今、観光関係の翻訳や通訳にも携わってみたいですね。

PROFILE

ロサンゼルス校 映像翻訳専攻
(日英実践クラス)2015年9月修了
上川クリスタさん

アメリカ出身。高校時代から日本語の勉強を始め、やがて翻訳者を志すように。語学学校講師を経て、現在は日英映像翻訳をメインに活躍している。



Instructors with vast professional experience

あなたをプロに導く講師陣

JVTA講師陣の強みは、多くの講師が自らもプロの映像翻訳者として働いていること。MTCのディレクターから、著名作品の字幕を手がけた世界的に名の知れた講師まで。最先端の現場で活躍する講師の指導によって、あなたをプロの映像翻訳者に導きます。

日英映像翻訳科

- | | |
|---------------------------------|------------------------|
| ジェシー・ナス 字幕翻訳 17 | 上田 英美里 字幕翻訳 24 |
| 横山 治奈 字幕翻訳 18 | ローラン・ドメーニグ スーパーバイザー 25 |
| ジョナサン・ホール 日英翻訳概論、字幕・プレスキット翻訳 19 | 後藤 太郎 スーパーバイザー 26 |
| スタンザーニ・ピーニ 詩文奈 マンガ翻訳 20 | 石川 エディス 字幕翻訳 28 |
| 南 久美子 字幕翻訳 21 | キャッチポール 若菜 字幕翻訳 31 |
| ノーマン・イングランド 字幕翻訳 22 | 足立 リリー 字幕翻訳 34 |
| トニー・キム 字幕翻訳 23 | |



英日映像翻訳科

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 石井 清猛 映像翻訳チーフディレクター 1 | 前田 美由紀 映像翻訳者 11 |
| 藤田 奈緒 映像翻訳ディレクター 2 | 杉田 洋子 映像翻訳者 12 |
| 桜井 徹二 映像翻訳ディレクター 3 | 秋山 剛史 映像翻訳ディレクター 13 |
| 浅川 奈美 プロデューサー 4 | 小原 香代 映像翻訳者 14 |
| 丸山 雄一郎 編集者/ライター 5 | 野村 佳子 映像翻訳者 15 |
| 満仲 由加 映像翻訳ディレクター 6 | 長尾 絵衣子 映像翻訳者 |
| 山根 克之 映像翻訳者 7 | 瀬谷 玲子 映像翻訳者 |
| 板垣 七重 映像翻訳ディレクター 8 | 加藤 亜弓 映像翻訳者 |
| 藤田 庸司 映像翻訳チーフディレクター 9 | 新楽 直樹 日本映像翻訳アカデミー代表 16 |
| 深井 裕美子 翻訳者/通訳者 10 | |

ロサンゼルス校

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| クリスピン・フリーマン 映像翻訳クラス(基礎) 27 | ジョナサン・ホール 映像翻訳クラス(日英)講師 19 |
| 當麻さやか 映像翻訳クラス(英日)講師 29 | マクラウド ヨカ 映像翻訳クラス(英日)講師 35 |
| 古川 晴子 映像翻訳クラス(英日)講師 30 | 藤原 民子 プレバトリー&通訳・実務翻訳クラス講師 36 |
| 中島 由紀子 映像翻訳クラス(基礎)講師 32 | 宗円 直妙 プレバトリー&映像翻訳クラス講師 37 |
| こはた あつこ 映像翻訳クラス(基礎)講師 33 | |

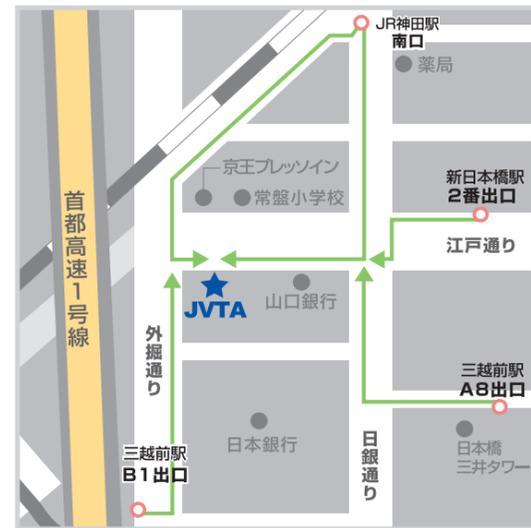
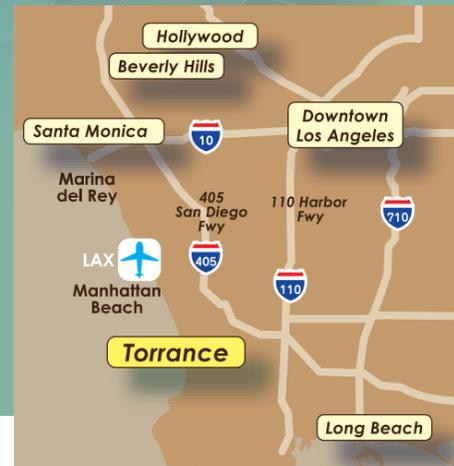
アクセス

Tokyo

団体名称：日本映像翻訳アカデミー®
 (特許庁商標登録番号：第4665515号、第4665516号)
 学校運営法人：日本映像翻訳アカデミー株式会社
 JVTAGグループ代表取締役 兼 学校長：新楽直樹
 役員：取締役 筆谷信昭
 所在地：東京都中央区日本橋本石町3-2-4共同ビル(日銀前)2F/3F

Los Angeles

法人名：米国ロサンゼルス支社 JVT A, Inc.
 学校名：Japan Visualmedia Translation Academy, Los Angeles
 代表取締役：筆谷信昭
 所在地：3510 Torrance Blvd., Suite 219, Torrance, CA 90503 U.S.A.



東京メトロ銀座線・半蔵門線「三越前駅」
 または、JR「神田駅」より徒歩5分

次は講義でお会いしましょう

We hope to see you in the classroom